

飢餓対策ニュース

2017 世界食料デー開催中！ 大会参加とともに『1食分募金』にご協力ください



世界食料デー
WEBサイト

ボリビア・サマーキャンプ参加者体験記(P.4-5)

飢餓人口“減少から増加”の衝撃

日本国際飢餓対策機構 総主事 近藤高史

2017年9月、ショッキングなニュースが世界を駆け巡りました。ここ10年来、着実に減少してきた世界の飢餓人口が一転、増加していることが分かったのです。これまでJIFHでも世界で飢餓状態にある人は7億9,500万人とお伝えしてきましたが、最新の調査では2,000万人増加し8億1,500万人になったというのです。(国連「世界の食料安全保障と栄養の現状 2017」より)

しかもこのニュースで一番ショックだったのは飢餓人口増加の主な原因が、自然災害や気候変動でなく「武力紛争拡大によるもの」という事実でした。つまり人災によって飢餓人口が増えているのです。事実、私たちが小学校での給食支援を続けている南スーダンで、内戦が激化した今年前半に飢饉が発生しました。またこの機関誌で農村開発の様子を紹介しているコンゴ民主共和国東部のプエトでも、つい先月、内戦による戦闘が村の数十キロ先まで近づき、このままではまた農場を捨てて元の国内避難民に戻らなければならないかもしれないという、悲痛な連絡が入りました。紛争による飢饉発生リスクは確かに以前に増して高まっているのです。日本の近隣でもミサイルや核実験のニュースを聞くにつけ、紛争による飢餓は遠い国のことでは

ない身近に差し迫った危機と言えるのではないのでしょうか。

日本の家庭で捨てられている食べもの(年間約822万トン)を世界の食料支援(年間約400万トン)に回したなら、それだけで今すぐにも世界の飢餓を終わらせることができるという試算があります。もちろんそこには解決しなければならない多くの現実的課題がありますが、飢餓を押し広げているのが私たちの「エゴと争い」なら、それを解決へ導くのも私たちの「熱意と決心」です。そしてそれはすべて「わたし」から始まるのです。飢餓についてもっと知ること、もっと人々に伝えること、そしてもっと平和を求めることで飢餓を食い止めねばなりません。

国連が定める「世界食料デー(10/16)」にちなみ今年も日本各地で「食」について考えるイベントが開催されます。日本国際飢餓対策機構が共催または協力する「世界食料デー大会」も、今年は全国27ヵ所で開催されます。ぜひこれらのイベントに参加して下さい。来年はご一緒にあなたの街でも食料デー大会を開いてみませんか？ また、あなたのご家庭で具体的に何かを始めることもできます。

この地球大の課題を解決するのに必要なのは「あなた」の第一歩なのです。

飢餓人口 795,000,000人 ▶▶▶ 815,000,000人

東京基督教大学
フィリピン
ビコール&スラ地域
異文化実習

2017年7月10日～8月4日、東京基督教大学の学生2名と共にFHフィリピンが活動しているビコール地域で、異文化実習を行いました。これは大学の授業の一環で、異文化の地に「訪問」ではなく1ヵ月間、「滞在」して現地の活動に参加し、一人の生活者として異文化を体験することを目的としています。私は引率者として、同行させていただきました。普段FHフィリピンのスタッフがしていることを一緒にする事で、私もフィリピンでの支援活動の難しさや困難を体験し、様々なことを考えさせられました。学生たちの体験談を紹介させていただきます。(JIFH 吉田知基)



私は先生になりたい

貧しさを感じさせない 素朴さの中にある幸せ

北園満喜 (3年生)

今まで何度か滞在したフィリピンでしたが、現地の人々に関わるのは初めての経験でした。訪れてみると分からないことが特に地方において多くありました。

正直、地方に対する漠然としたイメージは「貧しい」というものがあつたのですが、訪れたビコール、主にスラ地域では、「貧しさ」をあまり感じませんでした。確かに日本や首都マニラよりも生活水準は低く、貧しいと考えられるかもしれませんが、地方のコミュニティでは大多数の人々が同じ生活水準の中で助け合って生きていて、素朴で笑顔と活気に溢れていました。

「幸せはお金じゃ買えない」という言葉を耳にしますが、彼らの生活を見て、「お金」はないけれど、日々を純粋にコミュニティの中で幸せを感じながら生きていることがわかりました。確かにニーズがあることも事実であり、その「幸せ」の裏の部分をもっと知り、考え理解していかなければ、本当の意味での支援活動は始まっていけないように思いました。



農作物の収穫体験で 搾取の現実が心が痛んだ

仲西伸也 (3年生)

私はフィリピンを訪れるのは初めてでしたので、約1ヵ月にも及ぶ生活に慣れ、現地の人と上手くやっていけるのかとても不安でした。しかしFHスタッフや、村の方々が暖かく迎えてくれて、逆に私が元気をもらいました。

色々な家庭を訪問してその家庭の仕事を少しだけ経験する機会がありました。例えば、パイナップル、ココナッツの収穫は、道のないジャングルを20～30分歩いて、^{自分}鉋や鎌を使い一つ一つ収穫するというとても大変な仕事でした。でも現地の方は、毎日朝早くから当たり前のようにやっているのです。その上1個10円足らずしかももらえず、多くのお金が搾取されていると聞いて心が痛かったです。にも関わらず、現地の方が沢山、収穫した物をくれ、こんなおもてなしの心はどこから来るのだろうと驚きました。

私は開発途上国についてほとんど知りませんでしたが、出会った沢山の方が、「来てくれてありがとう」と言ってくださいました。行かないと、そこで何が求められているのか分からないという事を学びました。この異文化実習での経験は、私の将来に活かす事ができると思うので、参加できて本当に良かったです。



伊藤晴彦氏は泉大津市長時代に世界食料デー南大阪大会の来賓として大会に出席。回を重ねるうちに、大会のプログラムにも出演して下さるなど、積極的に協力していただきました。今年1月に、市長を退任されてからも南大阪大会の実行委員としてかわり続け、今回ご自分の趣味である陶芸を通して、世界の飢餓、貧困問題の取組みに協力したいと、**チャリティ陶芸展**（2017年9月15日～17日）を南大阪聖書教会で実施していただきました。



伊藤晴彦氏（前泉大津市長）の「わたしから始める、世界が変わる」

一步を踏み出す仲間を集めて始めるを実践

Q 陶芸をされるようになったのはいつ頃からですか

母がお茶と生花を教えていて、父は骨董が好きでした。高校3年の時に壺をもらったのをきっかけに、全国各地を回って集めるようになりました。大学時代には茶道クラブに所属するようになったのですが、そのとき茶道具を全部手作りする経験をしました。結婚後、妻も陶芸が好きであったことから、二人で全国の窯元57カ所をまわりました。その時に京都の先生（富田幸治郎先生）と出会って、陶芸を習い始めたのです。先生は青磁白磁がご専門で、それから今まで26年続けてきました。

自己充足で終わりたいくない

Q 今回のチャリティ陶芸展を開くに至った経緯は？

高校1年のとき以来、青少年の野外活動のボランティアを43年間して多くの子どもの面倒をみてきました。また阪神淡路大震災や東北地震でのボランティアの経験

を通して、「助け合い、協力する」というのは人間の生活の中での基本であると実感しています。だからこそ、自分の趣味に関しても自己充足で終わることがないように、何か社会の貢献につながることをしたいという思いがありました。この思いは特別なものではなくて、ごくナチュラルな、体にしみついたものです。というのは幼い時、母が自分と同年くらいの子どもを里親として世話していたのを見ていたからだと思います。

Q 今回の催しを実施されてのご感想は？

嬉しいことに市長時代からつながりのある人たちが率先して手伝いに来てくださったんです。世界の飢餓、貧困問題に取り組むためのチャリティということに賛同して、泉大津市内の各企業の経営者の方々も協力して下さり、商品を提供していただきました。多くの人とのつながりに感謝しています。

市長時代の経験が糧に

Q 市長をやめられた後も食料

デー南大阪大会の実行委員として協力して下さっていますね。

今までのさまざまな人との出会いを通して、意見交換をする中で共通認識があることを知りました。ミャンマーなど東南アジアを訪問して、違いを認めることや助け合い、協力することの大切さも改めて感じました。世界の現状を多くの人に知ってもらいたいと思っています。

このチャリティ陶芸展を始めることが決まった時に、師匠が協力を申し出て陶器を無償で提供してくださいました。3日間を通して約200人の方がチャリティであることを認識してきて下さっています。私は本当に幸せ者です。

Q JIFHの掲げる「わたしから始める、世界が変わる」の実践をして下さっていますね。

なかなか一步踏み出すのが大変ですけどね。一步を踏み出す仲間をどれだけ集められるかが重要です。一緒について来てくれる妻にも感謝しています。今後もできる限り自分にできる社会貢献をしたいと思っています。



2017年夏、当機構はボリビアの人たち・子どもたちとの交流を通して「宝物」を発見しよう、とボリビアでサマーキャンプを行いました。広島、名古屋、静岡、神奈川から6人の方が、ボリビアが好き！ボリビアの人たち・子どもたちに会いたい、とキャンプに参加してくださいました。きっと、ボリビアの人たちの「宝物」だけではなく、自分に対しても、日本に対しても「気づき」が与えられたことでしょう。（引率：JIFH ミン・ヨーギョン）



最高の宝物、見つけた！

柳沼大輝（大学生）

この夏、私はボリビアでキラキラ輝く宝物に出会いました。それはお金やものでは買うことのできない高価で尊いものでした。ボリビアは日本などの先進国と比べると物質的に富んでいる国ではありません。しかし、ボリビアにはその貧しさに負けない明るい笑顔と温かな愛がたくさん溢れていました、将来の夢を尋ねられて、自信をもって答える子どもたちの笑顔の中に大きな希望を見出しました。彼らの笑顔を守るために真摯に仕える小西さん、現地スタッフの働き、そして、子どもを愛する家族の強いつながりに心動かされました。たくさんの人たちの愛の上に子どもたちの笑顔があることを知りました。

私がボリビアで見つけた宝物、それは誰かのことを心から大切に思う心です。相手を思いやりなが

ら、互いに助け合いながら懸命に生きているボリビアの人たちの生活の中にゆるぎない真実の愛がありました。私もボリビアで見つけた最高の宝物を日本の愛する兄弟姉妹たちに分け与えていきたいと感じています。

誠実に取り組む姿に学ぶ

山口直子（社会人）

ボリビアでの2週間の滞在で私が一番心に残ったのは、小西スタッフをはじめ現地のスタッフの献身的な働きです。スタッフは日常的に現地の人々のお宅の訪問のために、石畳のガタガタ道をバイ



クで移動したり、荒れ地のような道を片道3、4時間かけて歩いたりします。現地の働きの多くは、すぐに結果が見えることではありません。それでも自分たちの時間や生活を犠牲にして、一人一人に誠実に取り組まれる姿。またそんなス

タッフを信頼している村の人たちと子どもたちの姿をみることでできました。愉快で温かいボリビアの人々が大好きになり、私にとって忘れられない素晴らしい旅となりました。一つ一つは小さく、地道にみえても、今ある目の前のことに誠実に取り組むことの大切さを学びました。



「君は愛されるために生まれた」

古畑由美（主婦）

ボリビアで、全人的成長を助ける国際飢餓対策機構（FHI）の働きを見ることができました。トロトロ地区のFHIスタッフ、エクトルさんの子どもたちへの手洗いの指導の説明で、「あなたは神さまから愛されている大切な存在だから、自分のことを大切にしましょう」と話されていたのが心に留まりました。私は日本で活動しているスタッフのために、具体的な必要に応えていきたいと決意しました。

わたしの宝物を発見



子どもと交流×恐竜の足跡観光×支援地訪問



子たちの未来に応えたい

柴田実乃里 (社会人)

私にとって今回のキャンプは、厳しい状況の海外の子どもや親たちの生活を自分の感覚すべてを使って感じる事が目的でした。その中で、FHボリビアのスタッフの地道で優しくも厳しい働きかけが影で大きな力になっていることを知りました。子どもたちの未来のため、地域の大人たちと緊密に連絡をとるスタッフと地域で支え合うボリビアの方たち、本当に大切な人と人とのつながりを改めて教えられた気がします。また美容師の資格を用いて髪を切らせてもらえたこともとても感謝しています。今回参加させてもらえたおかげで、前よりももっと世界の子どもたちの未来のために何かしたいと思えたとし、どんな小さなことでも愛情をもって少しずつでも行動に移すことが、誰かの小さな力につながると信じたい、と強く感じました。また絶対行きたいです!!

行ったからこそわかった

今枝巴奈 (社会人)

南米アンデス地方の音楽が好きで、な私にとって、ボリビアは“豊かな文化を持った憧れの国”でした。行ってみて「ボリビアに行ったから」ではなく「このキャンプに参加したから」良かったことが二つありました。私は今までいろいろな国際協力、支援のありかたをみてきたつもりでした。しかし支援地



の信仰について考え、その切り口で国際協力をみたことはありませんでした。今回、JIFHとFHボリビアを知り、こんな支援のしかたもあるのかととても勉強になりました。それは支援地の人々の心に寄り添う、とても自然な、そして有効な関わり方のように思いました。実はとても大切なことだったんだな、と…。

貧困問題は世界中に多々ある。でもそればかりに目を向けていてはただの“かわいそうな国、人々”で終わってしまう。その国や地域を知ること、行ってみること。そ

れがとても大事なのではないかな…。キャンプを振り返り、そんなことを考えました。行って知れたことがあり、新しい視点や気持ちをj得ることができ、またいろいろな考えを深めることができ、私は本当にこのキャンプに参加して良かったと思いました。

本当のボリビアを経験できた

Jessica Lee (英会話教師)

ボリビアでは歴史、文化、技術だけではなく、小さな村の一人一人の生活を見ることができました。スタジアムではなく、砂だらけのグラウンドでするサッカー、一生懸命にパパイヤを育てる農家、素晴



らしい自然。小さな部分ですが、本当のボリビアを経験することができたと思います。そしてどんなに遠い村でも、一人一人の子どもの人生に関わり、支援しているスタッフの働きに感動しました。祈って、支援して、私もボリビアにいる子どもたちの笑顔に関われたら幸いです。



ヘアカットボランティア



文化交流的一幕



手洗いの大切さを教えています



恐竜の足跡

九州北部を襲った豪雨に際し、皆様のご支援とお祈りを感謝します。当機構は直後の7月上旬から現地に緊急支援チームスタッフを派遣、九州キリスト災害支援センター(九キ災)の活動に協力してきました。九キ災は、大分県日田市にベースキャンプを置き、国内外から来られたボランティアさんが、酷暑の中で特に被害の大きかった福岡県朝倉市などで活動を続けてくださいました。全体的な復興にはまだ時間が必要です。被害を受けた方々が少しでも前に踏み出すことができるように願っています。(記事は8月末に現地で取材したものです)

支援とともにボランティア同士が助け合うことも被災地の信頼に



九州キリスト災害支援センター
日田ベース ディレクター
戸田潤氏

Q 熊本は地震災害、九州北部は土砂災害でしたが、ボランティア支援のあり方で違いはありますか

地震の時は1軒1軒のニーズに応えますが、土砂災害の場合は、被災地区の全体を見据えての対応が求められます。そのために、地区を統括する区長さんとしっかとコミュニケーションをとって地元との信頼関係を築きつつ、活動を進めていくことが大切だと思います。

Q 酷暑の中、気をつけたことは

「泥出しは＝力作業」と言える重労働です。しかも一軒当たりの作業時間が長く、最初1週間で終わると思ったところが実際は

1ヵ月位を要する場合があります。泥出しは単純作業ですから、人員に余裕があれば一度に大人数を投入するのも効果的です。今回は熱中症対策として水分や塩分の補給、短いサイクルで休憩を入れる(20分作業し、10分休憩)などの作業ルールを徹底しました。その甲斐もあって倒れるボランティアはほとんど出ませんでした。

徹底して仕えること

Q ボランティアさんに働いていただく上で大切にされたことは

無償奉仕できてくださる皆さんに怪我をさせないように努めました。それとともにボランティアさんにも地域への配慮をお願いしました。「自分たちはボランティアに来ている」という高揚感から態度が

横柄になったり、宿泊所で騒ぐなどの問題行動が生まれる場合があります。そうなる地域と人々の暮らしをじゃますることになるので、徹底して仕えることをお願いしました。また、ボランティア同士が互いに助け合う



米国や韓国、台湾など外国人ボランティアも多数集結



泥の中から取り出した食器類を洗う

ことも大切なポイントです。ボランティア同士が汗を流しながら助け合っている姿は、立ち上がろうとする住民の心にも良い影響を与え、安心や信頼にもつながります。

Q 当機構との協力を感じたことは

JIFHは昨年の熊本の時もそうでしたが、一緒に活動するときに「JIFHカラー」のようなものを押し付けずに現場にスムーズに入ってくださいます。それだけでなく、現場や拠点の対応でそれぞれに現場経験が豊富なスタッフを送って



豪雨直後に現地入りして情報収集をする吉田

くださったので、活動初期の混沌とした段階でも柔軟に対応してもらえて心強く思いました。拠点で一番苦勞するのはボランティアの宿泊管理などですが、それを担当している私の妻にとってもJIFHのスタッフの存在は大きな助けでした。

緊急募金報告: 1,805,731円 (8月末)
皆さまのご協力感謝申し上げます。
募金受付は9月末で終了いたしました。



山に近い地域の被害は甚大で再生の見通しは厳しい

どうして欲しいかと まず尋ねてくれる 九キ災ボランティア

福岡県朝倉市

浜川地区 高木さん（区長夫人）

7月5日、午後4時半頃に起きたら家の回りの状況がすごいことになっていました。慌てて貴重品や家財の一部、畳を上にあげました。みるみる水が侵入してきて、2階に上がる階段のところで家族4人でただその状況を眺めていました。

防災放送は全然聞こえませんでした。とにかく雨と雷の音がすごかったですか



浜川地区の住宅地に押し寄せた大量の土砂と流木

土石流で新しい川が… 150人を超える応援で 本当に助かりました

福岡県朝倉市

東林田地区 坂本さん

豪雨の日は自宅にいました。みるみる水が上がってきたので畳を2階にあげている間に、外の飼い犬が流されてしまいました。とにかく5年前とは比較にならないほど水の勢いが強くて、もしあの状況で外に避難していたらおそらく自分も流されていたと思います。

夜中に、外が静かになったので月明かりで外に出てみると、別のところに大きな川が出来ていました。そこにあったはずの家は家族3人ごと流され、その内の2人は亡くなられたそうです。

我家は何とか残りましたが、一階は激しく損傷しました。おそらく解体することになると思います。ただ、このままで取り壊しをすると産業廃棄物の不法投棄

ら。その時すでに停電していました。夜の9時位に消防から近くの小学校に避難するようにとの連絡が入りましたが、もう少し家に止まる判断をしました。娘に精神的な弱さがあり避難所生活が難しいと思ったからです。夜11時頃には雨が上がり、この地区の区長である主人は懐中電灯を片手に近隣の様子を何度も確認に出て、備蓄の水や食べ物を配ったりしました。その後、娘の関係で知り合った方の勧めで、九キ災に地区のボランティアとしてお願いしました。皆さんは文句一つ言わず、黙々と作業してくださり、「私たちはこれをします!」ではなくて、「高木さんはどのようにしたいのですか」とまず尋ねてくださるので、とても嬉しかったです。

浜川地区では、数キロ先の山から大量の土砂と流木が押し寄せて大変な状況でした。そんな中、九キ災は、どこにでも柔軟に動いてくださり、地区の方々から「お願いしやすいボランティアさん」として喜ばれました。

今は避難生活から家や生活の再建に心配が移りつつあります。公的な支援が不透明なことや地域の農業や観光などへの経済面での打撃も大きく、不安を覚えています。



坂本さんの家の前で（右は伊藤）

になるとのことで、今回九キ災のボランティアさんをお願いしました。これまでに延べ150人位の方が来てくださり、片付けがどんどん進みました。韓国からも40名ほど来られて本当に嬉しかったです。

家の再建についてはなんとも言えません。新しくできた川が整備されるなら住宅再建も考えるかもしれませんが、年齢的にあと10年間住めるかどうかなので正直難しいと思います。とにかく今は片付けに集中して、9月上旬には仕事に戻りたいと考えています。

九州キリスト災害支援センター

ディレクター 竹崎光則氏

活動が認められて 地区の「公民館」を 臨時宿泊所に

～水害被災者に応える
短期型の支援モデルを～



ベースキャンプでのディレクターの役割はいわば最終責任者です。具体的には作業のコーディネート、ボランティアが安心して活動できるための調整役です。

8月末にこれまでで最大の60名ものボランティアが国内外から来てくださることになり、この受け入れをチームで協議しました。この方々の臨時宿泊所として活動地の朝倉市杷木の林田地区の公民館（他1カ所）を借用するアイデアが出



たので、思い切って地区の代表者に打診しました。すると思いかけず「いいですよ」と即答をもらいました。それを聞いて「地域の人たちにこれまでの活動が認めていただいている」と思うことができました。公民館は地域の人々にとってとても大切な場所です。そこを外から入ってきた私たちに無償で提供してもらえたのは特別なことだと思います。

杷木地区での活動は9月末をめどに終了を考えています。といいますのも地震の時と違い水害の場合「とにかく早く終わらせたい、元どおりの生活に戻りたい」という気持ちがすごく強いのです。ですから今回は3ヵ月位を目安にして、一つの「短期型の支援モデル」を作りたいと考えました。

5年前の水害の時は何もできず心残りがありましたので今回は、「やらないといかん」という気持ちでこの支援活動に取り組みました。JIFHの応援はものすごく助かって嬉しいです。九キ災を通じてJIFHだけではなく、いろいろな支援団体と一緒に活動できることもとても嬉しいことだと思います。



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。

国際協力カレンダー 申し込み受付中



毎年皆様にご愛用頂いておりますカレンダー、2018年のテーマは「希望」です。皆様のご支援によって生まれた、人々の「希望」をご覧下さい。サイズ:約365mm×約258mm

価格:1部税込1,080円

送料:1部400円(ゆうメール)

2部からは、お届け地域、部数によって変わります。

申込先:株式会社キングダムビジネス

・お届けは日本国内に限ります。

・お支払い:後払い 郵便局払込で株式会社キングダムビジネス口座へ。

販売収益の一部は緊急支援活動などに用いられます。

【問合せ】キングダムビジネス

〒540-0026 大阪市中央区本町1-4-12NPOビル402

TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888

メール:customer@kbwin-win.org

Web:キングダムビジネスで検索



**チャイルドサポーター
支援されている子どもたちへ
クリスマスカードを贈りませんか?**

送付ご希望の方は、**10月31日(火)までに届くように大阪事務所へお送りください。**プレゼントの同封はご遠慮いただいております。音の鳴るカードは輸送中に破損する可能性があります。(11月以降もお預かりしますので普通郵便でお送りください。新年の挨拶も歓迎します。)※皆様が送られたカードを大阪事務所を受領した通知が必要な方は、封筒などに一言お書き添えください。

役員人事

このほど任期満了にともない役員が改選されました。
新理事長に清家弘久(前常務理事)が就任いたしました。

【理事】
清家 弘久
(理事長)
益田 良一
中澤 竜生
大友 幸一
池田 恵賜
篠原 基章
大嶋 重徳
奥田 英男
矢野 雅士

荒栄 豊
伊藤得志男
保浦 宏規
酒井 信也
吉持日輪生
山田 晶一
崔 信義
杉野 美礼
正野 隆士
拝高真紀夫
安田 豊

麦野 達一
砂川 勝彦
【評議員】
中臺 孝雄
沖胡 一郎
安達 隆夫
田辺 寿雄
吉本 慎二
古林寿真子
田中 敬康

【監事】
朝倉 章
(顧問税理士)
吉田 伸

【創立理事長】
堀内 顕
(アドバイザー)

〈敬称略〉

ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

現在までに
4359口

今すぐ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みができます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ **2017年世界食料デー**
1食分募金として()円
- ☐ ハンガーゼロサポーターとして協力します。
毎月()口 (1口1,000円)
- ☐ チャイルドサポーター(子ども1人4,000円)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフサポーターとして協力します。
毎月()口 (1口1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月()口 (1口500円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 住所: _____

..... (電話)

▼申込日: _____ 年 月 日 ▼NL 327号

FAX・072-920-2155

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
(広島) TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 00Cビル517号室
(東北) TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782
愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米202号
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216
U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業の協力をして下さっています。

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

★Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに460588ポイント(円)のご協力(4495件)がありました。募金はTポイント募金で検索